

台風・豪雨時等の避難情報が変わりました！

令和3年5月20日から **避難指示で必ず避難！**



災害時は正しい情報を入手し、慌てずに行動することが重要です。

警戒レベル
4

※避難勧告は廃止されました

警戒レベル		新たな避難情報等	住民の行動
5	災害発生 又は切迫 	きんきゅうあんぜんかくほ 緊急安全確保 ※1	直ちに安全確保
レベル4までに全員必ず避難!!			
4	災害の おそれ高い 	ひなんしじ 避難指示 ※2	危険な場所から 全員避難
3	災害の おそれあり 	こうれいしゃとうひなん 高齢者等避難 ※3	危険な場所から 高齢者等は避難
2	気象状況悪化 	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	避難に備え、ハザード マップなどにより、 自らの避難行動を確認
1	今後気象状況 悪化のおそれ 	早期注意情報 (気象庁)	最新の防災気象情報に 注意し、災害への心構え を高める

- ※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
- ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。
- ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

避難する際の新型コロナウイルス感染症への対策

- 避難する際は、マスク、消毒液、体温計など自分や家族が必要とするものは、持参できるよう用意しておきましょう。
- 避難先では、マスクを着用するとともに、手洗いやアルコールなどによる消毒、咳エチケット等の基本的な感染対策を徹底しましょう。
- 避難先で、発熱や咳等の症状が出た、あるいは体調がすぐれない場合は、速やかに避難所運営スタッフに申し出ましょう。
- 行政が指定した避難先だけでなく、安全な親戚・知人宅への避難も普段から相談しておきましょう。



東日本の広い範囲に記録的な大雨をもたらした令和元年東日本台風は、福島県内では初めてとなる大雨特別警報が発表されるなど、各地で甚大な被害が発生しました。本組合管内では6名の尊い命が失われたほか、広大な面積が浸水するなど記録に残る大きな被害を受けました。災害はいつどこで起こるか分かりません。だからこそ、これまでの教訓をいかした事前の備えが重要です。

災害からの被害を最小限にするには **自助・共助・公助** の3つすべてが大切です。

自然災害からの被害を最小限に抑えるためには、自助・共助・公助の3つの要素が最大限に機能することが大切です。

自助 とは、自分自身で自分や家族の命を守る行動を言います。平時から家具の固定をしたり、ハザードマップで周辺の危険な場所や近くの避難所を確認したり、いざという時のための備蓄品の用意をしておくことで自分自身や家族の命を守ることにつながります。

共助 とは、住んでる場所や職場などの近隣の人同士で協力して助け合う行動を言います。

公助 とは、消防などの行政機関などによる救助活動や被災者支援を言います。自分自身や家族、周囲の人だけでは解決できない問題に対応することです。



大規模災害時の自助・共助の重要性

東日本大震災や令和元年東日本台風のような大規模な災害時は、消防をはじめとした行政機関がすべての被災者に対して迅速に支援することが難しく、さらには行政自身が被災し行政機能が麻痺してしまう場合があります。特にここ数年頻発している豪雨や台風による災害は、被害が広範囲かつ長期化することが多いことから、発災前の早めの避難行動を含めた自助・共助がますます重要となってきています。



台風などは事前にある程度の**予測**ができます。

雨が降り始めたらテレビやラジオ、スマートフォンなどで気象に関する情報や避難に関する情報を積極的に入手しましょう。大雨の際、各市町村から災害の危険度に応じた3種類の情報を発信します。(避難情報の詳細は左ページ参照。)避難に関する情報を入手したら、危険が迫る前に早めの避難行動をとりましょう。

「今まで大丈夫だったから今回も大丈夫」という考えは絶対に止めましょう。人は、自分が危機的状況にあっても避難行動をとれない場合があります。その要因の一つは、危険や脅威を軽視したり、事態を楽観的に見てしまい、「自分だけは大丈夫」と錯覚する心理状態になるからです。このような心理状態に誰もがなってしまう可能性があることを理解し、適切な避難行動が取れるようにしましょう。

間に合わない時は「垂直避難」

土砂災害の多くは木造建物の1階部分で被災しています。逃げる時間がない等緊急の場合は近くの頑丈な建物や自宅の2階以上に避難する「垂直避難」も有効です。